

■野呂元丈 本草学者、蘭学者。将軍吉宗の命で、青木昆陽と共に蘭書解読に努め、「阿蘭陀本草和解」の金字塔。

のろげんじょう

芭蕉+師宣没 1694= 伊勢国(三重県)多気郡勢和村で、高橋重英の次男に生まれる。名は実夫。

生類憐令頂点 1695= 1歳:

赤穂浪士切腹 1703= 9歳:

徳川綱吉没・1709=15歳:

乾山陶器店・1712=18歳: 同村で医者をしていた父の従兄の野呂実雄(三省)の養子となり、修業のため京都に上り、

医学を山脇道立(玄修)に、儒学を並河天民に、_本草学を稲生若水に学び、先輩丹羽正伯と出会い、生涯親交し影響を受ける。

徳川吉宗将軍 1716=22歳: この年、徳川吉宗が8代将軍となり、

小石川薬園・1721=25歳: _松阪出身で紀州時代から吉宗に仕えていた薬草御用植村政勝の推薦で正伯が薬草御用となり、
洋書輸入解禁 1720=26歳: _養父が死去して家業を継ごうとしたところ、正伯の推薦で薬草御用に任命されて、江戸に向かい、

小石川薬園・1721=27歳: *正伯らと共に、諸国に採薬し始め、本草家として出発。この年、吉宗が洋書解禁し、

..... 1722=28歳: 「北陸方物」、
_60年ほど前にもたらされながら紅葉山文庫に眠っていたドドネウス「草木誌」やヨンスター「動物図説」の図の正確さに感心するも、専門的知識を持ってオランダ語を理解する者が無く、
..... 1725=31歳: 屋敷を拝領。

..... 1730=36歳:

享保大飢饉・1732=38歳:

..... 1736=42歳: 「狂犬咬傷治方」を著すも刊行せず。

ヱド船出没始 1739=45歳: 御目見医師となり、

..... 1740=46歳: *将軍徳川吉宗から命を受け、青木昆陽と共に、長崎通詞以外では日本人初のオランダ語の学習を開始。

..... 1741=47歳: _毎春のオランダ商館長一行の江戸参府時に定宿の長崎屋を訪問し、通詞を介して教示を受け、
_ヨンスター「動物図説」を質疑して和訳「阿蘭陀禽獣虫魚図和解」を献上、続いてドドネウス「草木誌」を質疑し薬草部分を抄訳「辛酉阿蘭陀本草之内御用二付承合候和解」を献上。以後、本格的に和訳すべく奮闘、

公事方御定書 1742=48歳: 江戸参府の外科医ムスクルスに質疑し、「壬戌阿蘭陀本草和解」としてまとめる。

..... 1743=49歳: 前年同様、_ムスクルスに質疑し、「癸亥阿蘭陀本草和解」としてまとめる。以後数年続け、

徳川吉宗隠居 1745=51歳:

義経千本桜・1747=53歳: _寄合医師に昇格。

忠臣蔵..... 1748=54歳: この年来聘した朝鮮通信使との医事問答「朝鮮筆談」。

..... 1750=56歳: *ついに「阿蘭陀本草和解」8冊として、日本に西洋本草学を紹介し、文化史上の金字塔となった。

徳川吉宗没・1751=57歳:

_晩年は病勝ちとなるも、研究意欲は衰えず、中国へ薬品や薬用植物を注文し、試植などし、

自然真営道・1755=61歳: 箱根温泉に湯治、

源内物産会・1757=63歳: 有馬温泉に湯治、

_生涯ほとんど帰省することなく、

大岡忠光没・1760=66歳:

..... 1761=67歳: 江戸の屋敷で、_没した。

ほかに「仏足石碑井記」「妙高山温泉記」「救荒本草並野譜」「連山草木志」などがある。